



著者プロフィール

山崎祐子（やまざき・ゆうこ）

昭和31年 福島県いわき市平に生まれる
昭和54年 東京女子大学文理学部史学科卒業
昭和59年 「風」入会
平成2年 平成元年度「風」新人賞受賞。[風] 同人
平成14年 「風」終刊
「万象」「梅檀」同人

現在 俳人協会会員 国際俳句交流協会会員
白百合女子大学・学習院女子大学非常勤講師

著書・論文

『明治大正 商家の暮らし』（岩田書店）、「丹沢の近代登山」
（『民俗のかたちとところ』所収、岩田書店）、「語るから書くへー多摩ニュータウンの昔話ー」（『昔話と俗信』所収、日本昔話学会）ほか

〈句集『点晴』より転載〉〈2004年7月12日時点〉

『点晴』（自選十五句）

山崎 祐子

国境に塩のこぼるる淑気かな
佐保姫へ歩みを揃へフラミンゴ
そら豆剥くよくしやべる子が側に居て
夏館氷触れ合ふ音運ぶ
飛び込みのはがねとなりて水を割る
こだまする祈り嘆きの壁涼し
濁り酒干せよ神輿の来る夜ぞ
蠍座の尾を草原の呑み込みぬ
天の川いちまいの天真つ二つ
盆舟にまだあたたかき白団子
満月が落ちてくるよと眠りけり
筆箱に芋虫を入れ登校す
十三夜丹波の壺に水満たす
木の葉散る音あり宇宙研究所
小春日の麒麟となれり鉛細工